



平成26年3月26日

平成25年度公立小・中学校における 教育課程の編成・実施状況調査の結果について

文部科学省では、小・中学校教育に関する政策の企画、立案等のために、標記調査を実施しています（前回は平成23年度）。このたび、その結果を取りまとめましたので、公表します。

1. 調査内容

(1) 調査対象

全ての公立小学校、中学校、中等教育学校前期課程の平成25年度計画について
(一部平成24年度実績を含む。)

※ 新学習指導要領に基づく教育課程は、小学校で平成23年度から、
中学校で平成24年度から完全実施。

(2) 調査手法

都道府県・指定都市教育委員会を通して調査を実施

(3) 調査期間

平成25年8月19日～平成25年10月18日

2. 調査結果のポイント

次ページ以降のとおり

<担当> 文部科学省初等中等教育局教育課程課

教育課程企画室 橋田、磯野

03-5253-4111 (代表) (内線2369)

調査結果のポイント ※ () 内は前回の調査結果

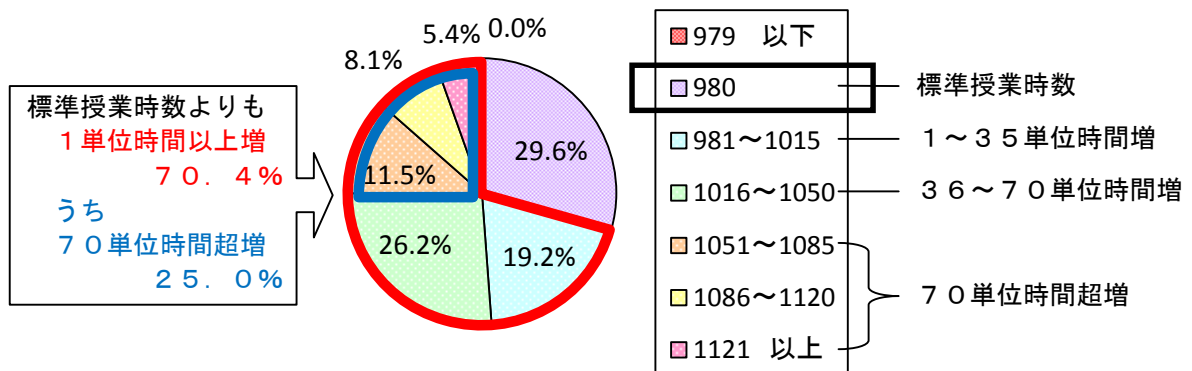
○ 小・中学校の授業時数の状況 (別添 p p. 2-4)

平成25年度における公立小・中学校の授業時数について、学校教育法施行規則に定める標準授業時数との関係を見ると、

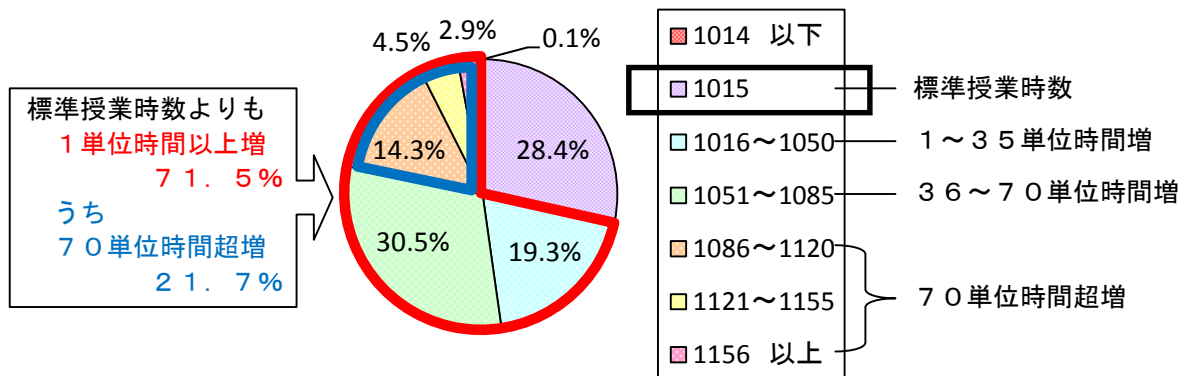
- ・ 標準授業時数と同数の授業時数を設定している学校が小・中学校共に約3割、
- ・ 標準授業時数を超えて授業時数を設定している学校が小・中学校共に約7割
うち標準授業時数を年間70単位時間(週2コマ程度)を超えて上回っている学校は、例えば、小学校第5学年では25.0%、中学校第1学年では21.7%となっている。
- ・ 全体の平均値で見ると、多くの学年で標準授業時数を年間40~50単位時間程度上回る状況であるが、中学校第3学年については、標準授業時数を上回る時数が約21単位時間と他学年に比べ少なくなっている。
- ・ なお、標準授業時数を下回って設定している学校は、いずれの学年でも0.1%以下であり、特別支援学級に係る教育の特例として実施している場合などに限られている。

(例)

<小学校第5学年>



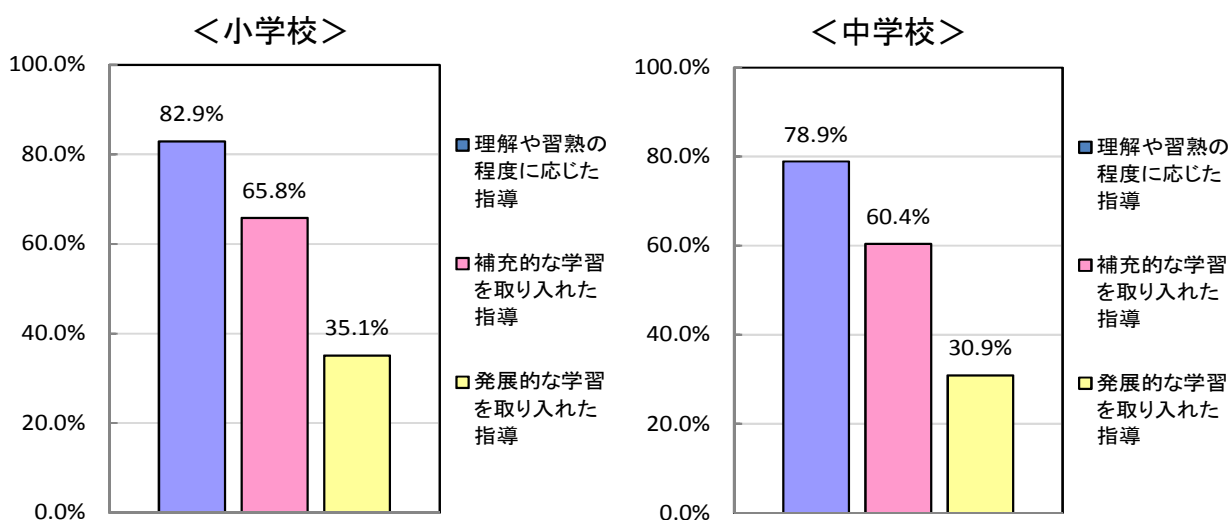
<中学校第1学年>



○ 個に応じた指導の実施状況（別添 p. 11）

平成25年度に、個に応じた指導として、理解や習熟の程度に応じた指導を実施する予定の学校の割合は、公立小学校において82.9%（78.0%）、公立中学校において78.9%（68.5%）であり、前回調査時より増加している。

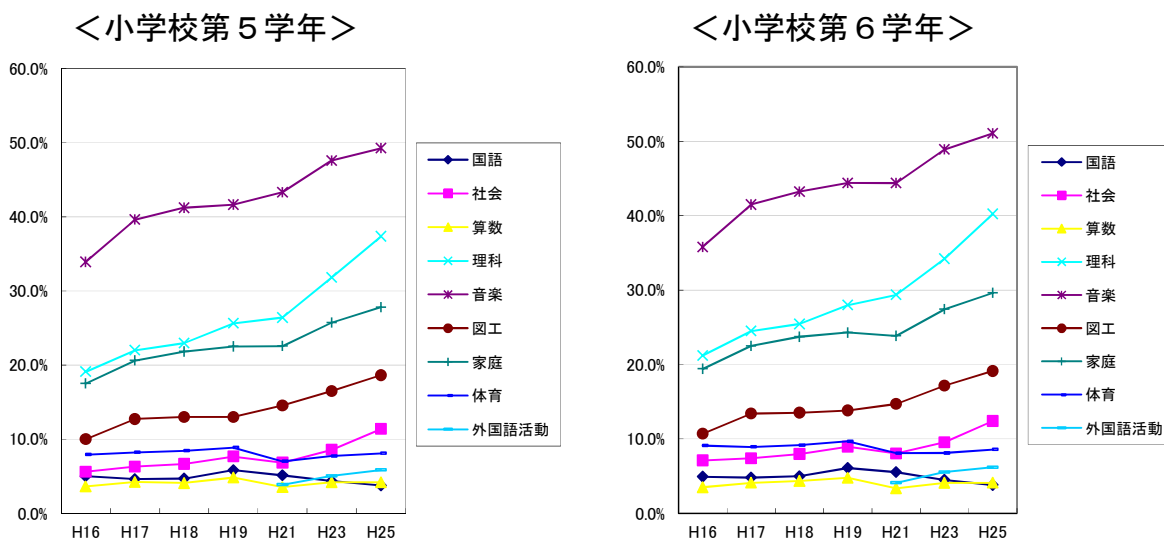
また、補充的な学習を取り入れた指導を実施する予定の学校の割合は、公立小学校において65.8%、公立中学校において60.4%、発展的な学習を取り入れた指導を実施する予定の学校の割合は、公立小学校において35.1%、公立中学校において30.9%である。



○ 小学校における教科等の担任制の実施状況（別添 p. 12）

平成25年度に、教科担任制による指導を実施する予定の公立小学校の割合は、ほとんどの教科及び学年において、平成23年度よりも増加している。

特に、第5学年及び第6学年では、教科担任制による指導を実施する予定であると回答した学校が、音楽で約5割、理科で約4割、家庭で約3割となっている。このうち、理科については、両学年ともに平成23年度調査時より5ポイント以上の増加となっている。



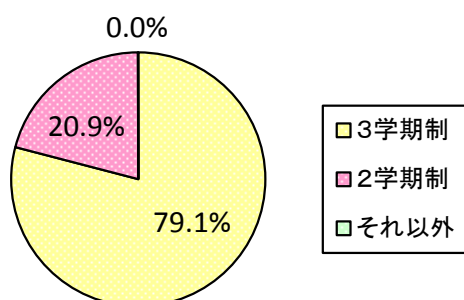
○ 学期の区分の状況（別添p. 14）

平成25年度に、3学期制を採用する学校の割合は、公立小学校において79.1%（78.0%）、公立中学校において79.4%（77.6%）である。

また、2学期制を採用する学校の割合は、公立小学校において20.9%、（21.9%）、公立中学校において20.0%（21.9%）である。

前回調査時と比べて、小・中学校ともに、3学期制を採用する学校の割合が微増し、2学期制を採用する学校の割合が微減している。

<小学校第5学年>



<中学校第1学年>

